＜様式１１－１＞

令和5（2023）年度

学　童　ク　ラ　ブ　事　業　年　間　活　動　報　告　書

市原野児童館

	A	B	C	D
4 5		活動の基本目標（指針）	主　な　取　組　名	成　　果　　と　　課　　題
6	生活援助機能		挨拶の励行	４月に行った新入生の下校引率時に、学校から児童館へ帰ってきたら玄関先で「ただいま」と言うように伝える。すぐに身に付き、下校引率終了以降にも帰館後大きな声で「ただいまー！」と言えるようになった。２年生以上も習慣化している。帰宅時も職員から「さようなら」と声をかけることを基本としており、子どもから挨拶をする子もいる。高学年においては、児童館内や館外活動の歩行中に地域の方と顔を合わせたら進んで「こんにちは」と挨拶をする子が多いが、慣れた職員に対しては反抗期もあり「ただいま」「さようなら」と挨拶しないこともあった。気持ちいい姿は認め、反抗的な子もこちらから気軽に挨拶をしていくことで気持ちが和らげられるようにしていく。
7			手洗い・手指の消毒	５月にコロナ感染症が５類に移行されたことで、徹底していた手洗い・手指の消毒を、食事（おやつ&お昼ご飯）前のみ必ず職員が手洗い場につき、外遊びからかえってきた後については職員がつかず、子ども自身の手洗いに任せることとした。３つある水道はコロナ禍中両端のみ使用としていたが、全部使ってよいこととした。手洗いの指導は、食事前に随時行った。高学年で反抗期にさしかかっている子は、手洗いが面倒くさくスルーしようとする子もいたため、食事前の手洗いに職員がつくことで徹底することができた。手指の消毒においても、５月より個人の意思に任せることとした。手洗い指導する機会があることで、子どもたち自身で行う際もある程度丁寧に手洗いする子は多かった。
8		安全・衛生の確保	おやつの提供	放課後、または長期期間中学童クラブで過ごす子どもたちに捕食として15:00～16:00間におやつを提供する。夜に行事がある時は、２回目の捕食として17:00以降に行った。５月にコロナ感染症が５類に移行されたことで、促していた黙食も取りやめた。夏休み中は、地域の方の自家製トマトジュースを提供することで、おやつを通して交流をはかることもできた。コロナ感染症対策として机を同じ一方方向に向けており、感染症対策が緩和されたあとも継続する一方で、遊びスペースの確保や仲間との団らんをはかる上でも、机の配置に工夫があってもよかった。早迎えの子には持ち帰りのおやつを渡した。賞味期限が袋に明記されていないおやつにおいては、管理不足に繋がったり持ち帰り後いつ食べるかは読めないため、持ち帰りとして渡さなかった。提供において、アレルギー確認はダブルチェックを行い、ミス防止につなげた。高学年より「おやつを自分たちで選びたい」という意見があり、今年度後期より行う高学年のみの帰りの会で取り組んだ。来年度は１日過ごす時間も長いため、夏休みから高学年におやつの献立を考えてもらってもよい。
9			夏休み高学年の取り組み	学校の長期休暇中、児童館内でのお昼ご飯後に高学年が各部屋の掃除（掃除機&雑巾がけ&モップ）を行った。低学年と場所を分け、高学年のみで過ごせる時間を確保することで、高学年の情緒の安定を図ること、また生活の中で頑張る場面をひとつ設定することで、１日の生活にメリハリをつけることを狙いとした。高学年のみの時間の確保は、生活の流れに組み込むことで昨年度よりも確実に実行することができ定着しつつあった。一方で、一部の子においては自分たちで設定した目標でないからか「なんで高学年がしないといけないの？」という声もあった。食事準備や図書室の本の整理等、子どもたち自身で生活を整えていけるよう、来年度より高学年のみではなく班の取り組みとして試みる。また高学年の時間中、高学年の中でもやりたいあそびによってチームが分かれており、１つの部屋をみんなで分け合うことに難しさを感じたため、来年度は夏休み前の話し合いの段階で改善案（自分たちがしたいことの時間の確保/高学年にしかできないあそびを高学年のみで楽しむ等）を出していく。
10		健康の管理・情緒の安定	登館時における安全指導	小学校の新入生下校指導期間に合わせ、学童クラブ児童の小学校から児童館までの登館路を職員が付き添いながら教えるとともに、道路の安全な歩き方も指導する。昨年度より落ち着いた子が多く、職員の指示に従って帰ってくることができていた。職員の付き添い期間終了後、子ども同士の揉め事（一緒に帰ろうと言ったが断られた/走って逃げられた/追いかけてきた/高学年の子と言い争いになった等）があった。２年生以上もトラブル（デコピンをした/より道をした/水筒を振り回した/つきとばされた際スマホを落とした/ののしりあい/挑発等）があった。指導期間のみならず、定期的に通学路を見守りに行ったり、小学校と連絡を取り合い子どもの所在確認を行った。不審者対応については、都度注意喚起や指導をしていく。昨年変更があった通学路は、どの学年も定着していた。傘トラブルが昨年から続いているため、来年度の新入生には傘の扱い方についてご家庭でも指導していただくよう協力をお願いする。
11			提出物の提出指導	連絡袋を撤廃したことにより、連絡袋チェックしていた時間を見守りにあてることができたり、連絡袋を返却し損ねたりすることはなくなった。お家の人から預かっている提出物を出し忘れる子が数名いたが、保護者より鞄に入れて持たせていることを知らせていただいていると、少人数なこともありこちらから持参しているかの声をかけることができた。
12			持ち物の自己管理	水筒、帽子、靴下、タオルなどの置き忘れが多かった。帰館時に水筒を手洗い場に置いたり、部屋で靴下を脱いだり、水筒や帽子をグラウンドに持って行ったり、服につけていたタオル入れを外して置いたりした際、部屋の移り変わりに自分の持ち物をそのまま置いていくことが多かった。置き忘れている子は同じ子であることが多いため、場面の移り変わりの際に自分の物を持っているか声をかけるようにしたり、自分で取りに行くよう促したりして対応していくとともに、遊戯室で脱いだ上着や靴下は”ポケットの中”か”ロッカーの中”に入れるよう徹底して声をかけ、忘れ物防止とした。ロッカー内も荒れがちな子が多く、整った状態の写真を提示したりロッカーの大きさを変えたりなどの工夫を実践していく。
13			整理整頓・道具、遊具の片づけ指導	コロナ禍で閉館後に消毒&噴霧をしていたため、使用したおもちゃは”使用済みBOX”に入れるように伝えていたが、コロナ感染症５類の移行を受け、出したおもちゃはおもちゃ棚へ戻すように促した。その際、おもちゃ棚には片づける物の写真を貼って提示したが、後期は剥がれてしまっていた。ある程度おもちゃの場所はカテゴリ化されていたことで、片づけ場所を認識している子は多かった。最初はBOXを探す子もおり慣れていない様子であったが、１カ月ほどで定着することができていた。自分で使っていた机の消毒&片づけは衛生管理上変わらず声をかけていたが、コロナ禍ほど職員も徹底することはなかったことで、子どもたちの負担も緩和されたように思う。学童机が重いため、低学年が扱う際には特に注意が必要であった。グラウンドで使ったをじょうろやバケツ、スコップなどの道具をそのままにすることが多かった。地域の方も使用するため、使い終わったあとは職員に返すように繰り返し伝えていく。学校の長期期間中は図書室のマンガが乱れやすかったり、トイレのスリッパを脱ぎ散らかす子が多いため、来年度は自分たちで生活の場を整えられるよう班で取り組むなどして設定していく。

	A	B	C	D
14		基本的生活習慣の確立	学習の習慣化	宿題をする時間は自分で決めて取り組めるようにしており、児童館内でのイベントや取り組みがある日はホワイトボードに提示し、計画が立てられるようにしている。宿題をする気があっても先に遊んでしまい、迎えの時間に間に合わずに困ってしまう子は一定数いた。１７時以降、宿題をする子は育成室の前方で先に取り組んでから遊ぶようにルール化することで、比較的迎えに間に合う子も増えた。気が逸れて取り組まなかったり、職員の声掛けをスルーして先に遊ぶ子もいたが、ルールがあることで流れを掴んでいる子もいるため引き続き行っていく。
15			長期休暇中の学習の時間	朝9:10～9:45の時間を学習の時間とした。時間中は、学習以外に塗り絵やお絵描きも良しとした。育成室と遊戯室の２部屋を使用。前年度と同じく、子どもたちが見通しを持って過ごせるよう毎日部屋替えはせず、１週間ごとの入れ替えとし、定着している様子であった。ホワイトボードに部屋割りを書いており、それをみながら動くことができていた。部屋分けの班の組み合わせによっては、騒がしかった。あらかじめ、宿題が終わったあとは自習学習セットを持ってくるよう伝えていたが、手ぶらで来る子もいた。また、後期になるにつれて宿題で解けない問題ばかりが残り、自力で解けなくおしゃべりをしてしまう子もいた。色塗りをする際、児童館にある色鉛筆の箱に数人が寄り集まり雑談をする姿が多かった。学習の時間の色鉛筆において、来年度は家から持ってきたもののみ使用OKとする。えんぴつ削りを各部屋に置いたことで、出入りは減った。読書の時間は、図書室を往復することがないよう、２部屋ともに職員が抜粋した本や絵本を３０冊程度置いておき、学習を終えた子はそこから取れるようにしたが、各部屋に設置していた本棚に図書室から持ってきて読み終わった本を置いていき大量となっていた。最初に各部屋に設置する本は、１０冊程度にしていく。家から持ってきた本を読む子もいた。学童担当職員も２年目ということもあり、夏休みのタイムスケジュールに前年度より対応することができていた。
16			長期休暇中の午睡、静かに過ごす時間	昼食後、身体や頭を休めることをねらいとした。静かに過ごす時間はDVDを上映した。１，２年生は鑑賞を楽しみにしていた。その日観る作品は、職員側が決めることで時間短縮となっていた。新しくＤＶＤ“どらえもん”を数本購入した。保護者より「その時間に宿題をさせてほしい」と依頼があった子に対しては、育成室のベランダ側のカーテンを開けて場所を提供した。高学年は暇を持て余している様子で、男子は静かに読書やたまに昼寝をしていた。女子は「鑑賞もしたくないし、読書も昼寝もしたくない」と言って手持ち無沙汰にしつつ読書や昼寝のどちらかを選択していた。育成室で昼寝を希望する子はたまにおり、４，５人くらいで部屋の端の離れて寝ていた。こそこそと談笑したりすることもあったが、職員が声をかけると静かにできる子が多かった。来年度は児童館でのDVD鑑賞がNGとなったため、どのように過ごすか要検討事項である。
17			当番活動	当番活動は帰りの会と、夏休み期間中の食事準備を行った。帰りの会は、前年度と同じく子どもたちの意見より「毎日班でまわしたい」とあったため、運動クラブの水曜日とお誕生会をのぞいた曜日に班で司会進行を行った。帰りの会の台本をリニューアルし、“班長”“副班長”のセリフだけでなく低学年のセリフも示し、またネタの幅も広げた。ゲーム時間は高学年が仕切りがちであるため、低学年が暇を持て余してしまう姿があった。低学年の最初と最後のセリフ以外にも役割を持てるよう改善していく。また帰りの会の担当班になると、前に立つプレッシャーからかゲーム中のルール違反（曖昧）や挨拶時の姿勢に厳しく口調や顔が怖くなったり、言うことを聞いてもらえないことで揉めそうになりがちであった。全体にルールを共有したり、あおったり暴言を吐くなどの態度が目に余る子への対応など、滞りなく進められるよう職員がアシストしていく必要あり。「高学年だけで帰りの会をしたい」との声があり、１０月よりスタートした。夏休みが終わる９月頃から始めてもよかった。夏休み期間中の食事準備は、担当班がわいわいしながら意欲的に取り組む姿があった。来年度は、生活で必要な整える場面に応じて当番をあて、まわしていく。
18			新入生歓迎会	新入生の紹介後、グラウンドにて①班対抗リレー②あいさつじゃんけん列車③もうじゅう狩りを行う。あそびを通して、新入生と在籍生は互いに顔と名前を覚えるいい機会となった。春のグラウンドはすべりやすく走ると転ぶ子が何人かいたため、使用するのであれば水を先にまいておくとよかった。また、新しいメンバーに緊張や抵抗感を示し反抗的な態度となる子もいたため、無理強いせず個別に対応をしていく職員の配置をあらかじめ設定しておく必要あり。今何をする時間か分からない子もいたため、来年度はみんなあそびではなく、班あそびとして取り組んでいく。
19			入会式	１年生全員出席のもと、滞りなく進めることができた。１年生はメダルをプレゼントされるまで静かに話を聞いており、２年生以上もリハーサルで高学年や館長先生から度々注意されていたことをよく聞いており、本番では集中して話をきくことができていた。終了後、保護者会会長より「格式ばった形ではなく、フランクな雰囲気の方がいいな」との声があった。来年度に反映させていく。
20		生活体験の拡大	お誕生会	月に１回、その月生まれの子を全員でお祝いした。当日出席した誕生月の子が前に並び、祝う側は質問をしたりお誕生会ゲームに参加したりした。前年度は班で企画＆進行をまわしていたが、今年度は有志の子で行うこととした。準備として、祝う側の子は誕生月の子が座る椅子を大型ブロックで作ったり、職員と一緒に飾りつけをしたりと自主的に動いていた。司会も毎月やりたがる子がいたが、子ども同士で役割分担がうまくいかずに揉めやすかった。来年度は、準備は引き続き子どもと一緒に取り組み、企画＆進行は職員が執り行っていく。
21			高学年会議	会議を週〇回、月〇回と固定せず、必要に応じて開いた。春頃、４年生は高学年としての意識がまだ芽生えていないようであったが、夏頃活動に向けた取り組みを通して高学年同士の仲間意識を感じているようであった。高学年だからこそできる企画＆実行や、学童クラブ運営に関した子どもの意見の吸い上げとして、来年度も必要に応じた会議を開いていく。
22			親子でいっぱいあそぶday	職員のワークバランス調整として親子企画を年１回（夏）の開催としたが、１年の思い出として強く記憶に残っている子が多かった。来年も年１回の開催としていく。１泊２日のスケジュールで詰め込みすぎない内容としていたが、当日実行すると目まぐるしい時間となったため、来年度は計画の段階でさらに内容を改善していく。
23			３年生会議	会議を週〇回、月〇回と固定せず、必要に応じて開いた。活動に対しやる気がある学年であったため、少し物足りなさを感じているようであった。その年の学年のカラーによって取り組み数を調整していく必要がある。
24	子ど		お楽しみ昼食会	夏休みの最終日に行う。例年と同じく、３年生が昼食のお店とメニュー決め（吉野家）＆準備＆当日の配膳を行う。児童館がどの飲食店からも配達されない立地であったため、持ち帰りで注文する。あらかじめ電話で注文を行い、前日に確認電話もしていたが、当日の予約時間に取りに行くと調理中であったため予定より１時間程時間が押した。また、持ち帰りメニューの中から３年生がみんなに提示するメニューをしぼったが、選択できる種類が多かったことから当日の配膳は≪食事の中身×個人の注文≫の把握がむずかしく、全体が配り終わるまでに時間がかかった。来年度は提示するメニューを３つ程に減らすことで、混乱を回避していく。また、おやつ代の返金をしなくなるため、年１回ではなく年に数回行っていく。

	A	B	C	D
25	も育成機能		第２回絵はがきデザインコンテスト応募	夏休み中の取り組みとして、やりたい子のみ取り組み応募した。夏休み中は児童館で１日過ごす時間が長いため、やる気がある子は活動があることで活力を発散させられたようで、取り組んでよかった。また受賞すると賞品をもらえることが原動力にもなっていたため、次回も賞品があるものに応募していく。
26		社会性の養成	全体班会議	会議を週〇回、月〇回と固定せず、必要に応じて開いた。年に４回であったが、自由遊びや宿題、児童館行事や学童クラブの活動の兼ね合いから、ほどよい回数であった。
27			こどもまつりに向けた取り組み	今年度のこどもまつりでは”自分たちがしたいこと”を出店する形となったため、それに向けた準備を行った。新鮮さがあったようで、それぞれに準備を楽しんでいた。”したいこと”が見つけられなかったり、進め方が分からなかったりもしていたため、都度職員が形となるよう誘った。当日はどの子も達成感があったようで、思い出に残る取り組みとなっていた。
28			低学年/高学年に分かれた帰りの会	高学年の時間の確保の一環として行う。低学年のみの帰りの会は、３年生が一番上となるため、高学年に気を遣わず全体的にのびのびと進行することができていた。高学年のみの帰りの会は、高学年の意見を反映させた。前年度していたおたより作成はとりやめ、おやつのメニュー決めのみ行う。時間配分がちょうどよかった。３月は注文がないことから、”児童館としてこうだったらいいな”や”最近のできごと”など高学年と職員でおしゃべり会をしたり、カードゲームを行ったりなどして高学年同士の交流をはかった。取り組み中異年齢間で揉めることがあったため、来年度は前期はアイスブレイクを行い、後期に取り組みを行うこととする。
29			修了制作	子どもたちに修了制作物はなにがよいか投げかけたが、アイディア出ず。職員が提示したものの中から決め、取り組んだ。来年度は、６月頃から修了制作になにを作りたいかアイディアを募集する。今年の思い出を絵柄に描きこんだ”ビッグトランプ”を制作した。取り掛かりをめんどくさがる子が半数ほどいたが、始めるとすぐに終わらせることもできたため負担は感じていないようであった。時間をかけたい子は丁寧に取り組んでいた。
30			修了式に向けての取り組み	在籍生は、修了生へのサプライズとしてメッセージソング＆ダンスに日々取り組んだり、自由時間に折り紙で花を作ったり、当日の飾りつけを職員と一緒に行ったりすることで、式に向けての期待感を高め、当日は一人ひとり役割をもって式に参加できていたように思う。３年生以上になると簡単なダンスを恥ずかしがる子も多かったため、高学年に振り付けを考えてもらうなど、子どもの声をより多く反映させてもよかった。
31		自立の促進と自主性の尊重	はばたけ修了生	今年度は格式ばったスタイルというより、踊ったりクイズをしたり、子どもが作った折り紙の花を飾ったりなどリラックス感あるスタイルとした。コロナ禍の時は一番広い交流室で行っていたが、景観の良さと感染症対策の緩和を受けたことから、今年度は遊戯室で行った。部屋の移動も行いやすかったため、来年度も同じ形とする。修了証書を表彰状ではなくアルバム風にしたことで、作成が手探り状態となり時間を要した。今年度の反省を活かし、来年度はスムーズに行うようにする。
32				
33				
34				
35	子育て支援機能	子育てに必要な情報の提供	保護者懇談会	コロナ感染症対策緩和を受け、二部制をとりやめた。遊戯室で行う。春の懇談会を土曜の昼に開催すると、「懇談会は夜のイメージがあったため、仕事の休みを取れていない」という保護者が数名おり、参加人数につながらなかった。来年度は金曜日の夜に統一する。夏以降はスライドショーを取り入れた子どもの様子や、学童クラブの生活や行事においての連絡事項の周知、意見交換などを行う。保護者懇談会後に親子企画をくっつけたりはしていなかったが、参加に定着があり参加率はよかった。
36		子育ての仲間づくり	個人懇談	５月（新入生のみ対象）と１２月（希望者のみ対象）で行った。さくらdaysのアンケート機能より出欠をとった。希望者のみで行ったことにより、普段あまり話せなかった保護者ともゆっくり話す機会を設けることができた。コロナ感染症対策緩和を受け、玄関での引き渡しが廃止されたことで保護者と話す機会も増えたが、家庭での姿や学校での様子など聞いたり児童館での様子を話せたりできる良い機会となった。
37		子育てを支えるネットワーク	保育参加	子どもたちの児童館での普段の様子をご覧いただけるよう、今年度保育参加を取り入れた。期間中３名の保護者が参加してくださり、コミュケーションをはかるよい機会にもなった。
38			入会説明会	夜に開催する。兄弟組をのぞいた１世帯のみの欠席となり、出席率がよかった。
39			親子企画	８月のみの開催とした。保護者の協力によるカレーづくりをしたり、子どもたちと一緒に川あそびやゲームなどを楽しんだり、普段の帰りの会を模した”おわりの会”に参加していただくなど、保護者と子どもの交流もはかることができた。保護者からは、「ちよ先生（元元館長先生）のカレーが食べれて嬉しかった」「子どもが夜泊まりに行ってくれてよかった」との声を頂けた。
40			保護者向けアプリ≪さくらdays≫	出欠連絡やお迎えの時間変更、おたより配信、イベント参加などのアンケート集計を行う。手軽さからか、連絡漏れが減ったように思う。おたよりや配布物は、データは威信になったことから渡しそびれはなくなった。導入の年であったため、職員も保護者も手探りの中使用し、徐々に慣れていった。
41			登録前説明会	夜に開催する。９世帯出席希望があり、当日は３世帯欠席し６世帯《児童館事業”やきいもフェス（年長児対象 児童館ツアー）”に来場した年長児にＴＥＬにて案内した中から２世帯、見学をされた方から１世帯、市原野児童館のＨＰをみてくださった方から１世帯、児童館に問い合わせをいただいた方から２世帯》が出席された。内５世帯は入会につながっている。児童館事業”やきいもフェス”にて登録前説明会のご案内ができていなかったため、来年度は周知できるように案内用紙を配布するなどして工夫していく。
42				